



歴史の風に吹かれて

多賀城悠歩



日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が「日本遺産」として認定します。日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」の構成文化財が多賀城市内に5件あります。



多賀城南門イメージ図

編集・発行 多賀城市 商工観光課
〒985-8531 宮城県多賀城市中央 2-1-1
TEL.022-368-1141(代) FAX022-368-9069
ホームページ <http://www.city.tagajo.miyagi.jp/>
Eメール kanko@city.tagajo.miyagi.jp
※制作協力 大人の情報誌 *くらぐ*

問い合わせ 多賀城市観光協会・史都多賀城観光案内所
〒985-0873 宮城県多賀城市中央 2-7-1(JR 仙石線 多賀城駅内)
TEL.022-364-5901 FAX022-364-9905
ホームページ <http://www.tagakan.jp/>



多賀城まるごとマップ



自転車ですすい
 多賀城の名所・史跡巡りにはレンタサイクルがおすすめ。さわやかな風を感じながら、遺跡や寺院を目指して西へ東へ軽やかに移動することができます。JR 仙石線 多賀城駅にある史都多賀城観光案内所に直接お申し込みください。
 利用料金 / 1時間につき 100円
 (貸出時に保証料 1,000円が必要となります。自転車返却時に返金いたします。)

レンタサイクルのお申込み・お問合せは
 史都多賀城観光案内所へ
 ○JR 多賀城駅内 TEL.022-364-5901
 FAX022-364-9905

市川 浮島

JR東北本線国府多賀城駅の北に広がる市川・浮島地区には、市名の由来となった特別史跡多賀城跡があります。多賀城は、奈良の平城京を都とした古代国家が、東北地方経営の拠点として築いた城。万葉歌人大伴家持、征夷大将軍坂上田村麻呂など歴史上有名な人々も派遣され、活躍しました。

また、多賀城は都人の憧れを集めた「歌枕の地」としても知られています。古より、風流を解する人々の心を捉えた北の都でした。



拜殿の縁に置かれた安産枕。安産を祈願する人が一ついただいで帰り、無事出産したら新しい枕を添えてお返しする習わしです。



●浮島神社 多賀城市浮島 1-1-1

こんもりと緑が繁る小さな丘の上にあります。周囲に民家がない時代はまさしく浮島のように見えたことでしょう。創建年代は不明ですが、多賀城が栄えた平安時代には既に存在したと伝えられています。

歌枕

山口女王が大伴家持へ遣わした歌。鳥居の脇にこの歌が刻まれた歌碑があります。この歌に詠まれた歌枕「浮島」が浮島神社だといわれています。

しほがまの前に浮きたる浮島の
浮きて思ひのあるせなりけり
新古今集 伝山口女王



●陸奥総社宮 多賀城市市川字奏社 1 TEL.022-368-8065

多賀城東門の東側約150メートルの道路沿いにあります。延喜年間(901～922)、陸奥国にあった100の神社の祭神を合祀して創建されたと伝えられ、塩竈神社に参拝するには、先ず総社宮に詣でることとされています。現在の拜殿は享保19年(1734)に建てられたもの。背後に広がる鎮守の森の老杉は樹齢約600年。



() 内の番号は、14 ページのコース案内をご参照ください



●加瀬沼 江戸時代、八幡の領主天童氏が造った人工のため池。春の桜、秋の紅葉の時期には多くの市民で賑わいます。農林水産省により、「ため池百選」に選定されています。



●多賀城神社 多賀城市市川字大畑 昭和27年多賀城政庁跡に創建された市内で最も新しい神社。即位前に陸奥の太守を務めた後村上天皇と、それに仕えた北畠親房・顕家父子らが祀られています。昭和48年政庁跡の整備に伴い現在地に遷されました。社殿は多賀城海軍工廠の奉安殿を移築したものです。



●伏石 多賀城市市川字坂下 弘安10年(1289)の年号が刻まれた鎌倉時代の板碑(供養碑)。玉川寺が政庁跡の南側にあった頃、住職が寺に連れて門前に立てたところ疫病がはやり、元どおり伏せて置いたという伝説があります。



●貴船神社 多賀城市市川字金堀 旧塩竈街道に面した鬱蒼たる木々の中にあります。五穀豊穡、海上安全、大漁の神とされ、古くから大小の木の船が献納されてきました。覆堂の中の小祠が本殿であり、元禄6年(1694)に現在地に遷されたといわれています。覆堂を包み込むように枝葉を繁らせる榎の大木は樹齢470年。



●多賀神社 多賀城市高崎 1-14-13

起源は、多賀城に赴任した陸奥国司や開拓民が崇敬していた近江国多賀大社を遷祀したものと伝えられています。



() 内の番号は、14 ページのコース案内をご参照ください

●志引の森

多賀城市東田中

自動車が行き交う道をはずれ、森の中を通る細い道に足を踏み入れると、伝説を秘めた志引石や志引観音、ひっそり佇む路傍の石仏が道行く人を静かに見守っています。



市川・浮島地区の南方に続く高崎・東田中地区には、多賀城廃寺跡など多賀城に関連する史跡があります。住宅地とその中に取り残された自然豊かな風景。四季折々の風情を目にすることができま

高崎
東田中



●多賀城廃寺跡

多賀城市高崎

多賀城とともに建立された付属寺院。大宰府観世音寺と伽藍配置が同じであり、寺名も観音寺の可能性が高いと考えられています。史跡公園として全国で2番目に整備されました。〔特別史跡・日本遺産〕



●化度寺 弘安の板碑

多賀城市高崎 2-5-3

化度寺境内には、弘安7年(1284)の年号が刻まれた鎌倉時代の板碑(供養碑)が移設されています。市内で最も古いものです。〔市指定文化財〕



●高崎遺跡 多賀城市高崎

多賀城廃寺跡の周辺に広がる高崎遺跡井戸尻地区からは、平安時代の灯明皿が200個以上発見されています。付近で万灯会のような仏教の儀式が執り行われたのでしょうか。



●多賀城跡 多賀城市市川

多賀城は神亀元年(724)に大野東人によって創建され、陸奥国府と鎮守府が置かれました。約900メートル四方という広大な城内の中央には、重要な政務や儀式を行う政庁があります。発掘調査成果をもとに環境整備が行われており、平城宮跡(奈良県)、大宰府跡(福岡県)とともに日本三大史跡に数えられています。〔特別史跡・日本遺産〕



●多賀城碑 (壺碑)

多賀城市 市川字田屋場

那須国造碑(栃木県)、多胡碑(群馬県)とともに日本三古碑の一つに数えられる奈良時代の古碑。多賀城南門近く、覆屋に守られて立っています。高さ196センチ、幅92センチの碑面には、平城京や各国境からの距離、多賀城の創建や修造について141文字でつづられています。歌枕の「壺碑」とも呼ばれ、江戸時代には松尾芭蕉が訪れ、対面した感激を『奥の細道』に記しています。〔重要文化財・国名勝・日本遺産〕



歌枕

多賀城碑が歌枕壺碑とされたのは江戸時代になってからのこと。松尾芭蕉はこの碑に出会い、芭蕉俳諧の根本理念である「不易流行」(詩的生命の永遠性と流動性は本来一つであるという考え)を思索したとされています。



むつのくのおくゆかしくそおもほゆる
つほのいしふみそどのほまかせ
山家集 西行法師



留ヶ谷

とめがや

ゆふさればしほ風こして
みちのくののだの玉河千鳥なくなり
新古今和歌集 能因法師

市役所やJR仙石線多賀城駅のある中央地区を流れる野田の玉川にも、二つの歌枕があります。



歌枕

●野田の玉川

塩竈市大日向から多賀城市内を通り、砂押川に注ぐ小さな流れが野田の玉川。歌枕ともなっているこの小川は、平成4年に市の「水・緑景観モデル事業」の一環として、往時を偲ぼせる姿に整備されました。



歌枕

●おもわくの橋 多賀城市中央

野田の玉川にかかるおもわくの橋。別名安倍の待橋とも呼ばれます。安倍とは前九年の役で知られる安倍貞任のこと。おもわくという名の美しい村の娘に想いを寄せ、この橋を渡って通ったという伝説が残されています。

ふままうきもみちのにしきちりしきて
人もかよわぬおもはくののはし
山家集 西行法師



歌枕

ちぎりきなかたみにそてをしぼりつつ
すえのまつ山なみこさじとは
後拾遺和歌集 清原元輔

●末の松山

「きみをおきて あだし心を わが持たば 末の松山 浪もこえなむ」—古今和歌集 東歌 / 「うらなくも 思ひけるかな 契りしを 松より波は こえじ物ぞと」—源氏物語 …など、末の松山を詠んだ歌は数多く残されています。(国名勝・日本遺産)

八幡

やわた

八幡周辺はまさしく歌枕の宝庫。末の松山は平安時代から多くの歌に詠み込まれ、その中の一つは百人一首にも取り上げられています。

後に、江戸時代の俳人松尾芭蕉もこの地を訪れ、感銘を受けた様子を『おくの細道』に書き記しています。

●蘆の碑(あしのいしづみ) 多賀城市中央 2-1-1

「泥かぶるたびに角組み光る蘆(あし)」この句は、市内在住の俳人 高野ムツオ氏が、東日本大震災の巨大津波直後、泥の中でも蘆の穂先が光に輝いて角組む(芽吹く)光景を、多くの災禍を乗り越えてきた東北の先人や、震災の苦難に立ち向かう被災者の姿に重ねて詠まれたものです。



●天童氏墓所 多賀城市八幡

喜太郎神社北側の一角に、天童氏歴代の墓所があります。苔むした大きな墓碑は、在りし日の領主の威厳を示すかのよう立ち並んでいます。



●喜太郎神社 多賀城市八幡

別名天童神社、喜太郎稲荷とも呼ばれる天童氏の守護神。天童氏が出羽国天童にいた頃、喜太郎という足輕に窮地を救われたという伝説が残されています。



歌枕

わが袖は沙千に見えぬ沖の石の
人こそ知らね乾くまもなし
小倉百人一首 二条院讃岐



●興井(沖の井・沖の石) 多賀城市八幡

末の松山から南へ伸びる道を下ると奇石が連なる池が見えてきます。住宅地の中に残り残されたこの池が、歌枕の沖の井(沖の石)。『千載和歌集』にある二条院讃岐の歌は有名で、作者は後に「沖の石の讃岐」と呼ばれたそうです。(国名勝・日本遺産)



●宝国寺 多賀城市八幡 2-8-28 TEL.022-362-4572

江戸時代、八幡は仙台藩の重臣天童氏が屋敷を構え、その周囲には家臣や庶民の住まいが立ち並び町場が形成されました。宝国寺は天童氏の菩提寺で、山号は末松山。本堂の奥、二本の老松が聳える丘の辺りが歌枕末の松山と呼ばれています。



東部

貞山運河がゆったりと流れる東部地区。貝塚や横穴墓群など、遙か遠い時代を偲ばせる遺跡が点在します。



●**柏木遺跡** 多賀城市大代
奈良時代の製鉄炉や炭窯、工房跡がまとまって発見された遺跡です。ここで作られた鉄は多賀城に運ばれ、武器などに加工されたのでしょうか。多賀城直営の製鉄所跡と考えられています。〔特別史跡〕

●柏木神社

多賀城市大代 5-17-50

祭神は塩竈神社随従の神とされ、創建は延暦2年(783)と伝えられています。かつて境内に柏の木があり、塩竈神社の神は塩をその葉で包んで人々に分け与えたと伝わっています。



●大代横穴墓群

多賀城市大代

7世紀末から8世紀にかけて造営された地元豪族の墓地。山の斜面に掘り込まれた横穴状の墓室からは、金銅で飾った大刀やメノウ・水晶の玉などが発見されました。



●榊形団貝塚

多賀城市大代
弥生時代の貝塚。大正時代、この貝塚から発見された土器に稲穂の跡が残っていたことから、東北地方でも古くから米作りが行われていたことが提唱されました。



●貞山運河

阿武隈川から塩竈湾を経て、石巻に至る国内最長の運河。明治時代、発案者である伊達政宗の法名「貞山」にちなみ、名付けられました。多賀城市分は江戸時代前期に掘削されて御舟入堀と呼ばれ、伊達藩の物流を支えました。「美しい日本の歴史的風土100選」に選定されています。



●緩衝緑地帯

多賀城市大代

多賀城市大代から七ヶ浜町湊浜にかけて広がる緑地公園。運動広場と芝生広場、陸上競技場、野球場などがあり、市民憩いの場となっています。



西部

仙台市に接する多賀城市の西部。いぐねと呼ばれる屋敷林や、倉のある旧家など、古い農村の面影が残されています。



●国守館跡

多賀城市山王字千刈田

10世紀前半、都から陸奥国府に赴任した国守の邸宅跡。国守はこの場所でも政務を行い、都の右大臣に陸奥の駿馬を贈ったことを示す木簡が見つっています。およそ120畳敷きの主殿や巨大な井戸を備えたこの邸宅跡からは高級な器が多数発見されています。



●お山王さまと色の御前

ある夏の暑い日のこと、日吉神社の神お山王さまは、慕っていたお隣の南宮神社の女神色の御前に声をかけました。ところが、色の御前は、お山王さまの恐ろしいほど真剣な顔に驚き、一目散に逃げ出してしまうたのです。追いかけるお山王さま。色の御前は必死に逃げ回りました。麻畑に身を隠したものの見つかってしまい、さらに逃げる途中、芋の葉で滑った拍子に折り悪く茶の枝で目を痛めてしまいます。さんざんな目に遭いながらとうとう黒川郡吉田村の升澤まで辿り着き、白を彫っている船形神社の別当に助けを請いました。別当は、彫りかけの白に色の御前を隠し、追いかけてきたお山王さまから守り通しました。



●日吉神社

多賀城市山王字東町浦

住宅地の中にこぢんまりと佇む小さな社と石の鳥居。明治末期に陸奥総社宮に合祀されましたが、山王村の鎮守様として親しまれていたため、改めて小社を建立し現在に至っています。

●南安楽寺古碑群

多賀城市新田字南安楽寺

七北田川の堤防近くにある古碑群。鎌倉時代の年号を刻んだ碑が8基あり、お彼岸の供養碑と考えられています。もともと河原にあったものを一箇所に集めたものです。



●七北田川

多賀城市の西端を流れ、仙台市との境界となっています。中世には冠川と呼ばれ、川船による物資輸送に大いに利用されました。



●南宮神社

多賀城市南宮字色の地

南宮は鎌倉時代の記録に名をとどめる由緒ある土地。南宮神社は水田の中に残された小さな森の中に鎮座しています。もともと一組の男女の神が祀られていたところに、津波で社を失った若い女神(色の御前)が同居したと伝えられています。



多賀城歳時記

秋

10月中旬

史都多賀城万葉まつり
大伴家持のつどい短歌大会
「壺の碑」全国俳句大会
仁和多利神社例祭

10月下旬

柏木神社秋季例祭

11月初旬から

七五三祭

11月下旬

たがじょう秋まつり

11月下旬から年始

悠久の詩都の灯



陸奥総社宮



史都多賀城万葉まつり



「壺の碑」全国俳句大会

春

4月中旬

陸奥総社宮例大祭
八幡神社例大祭
多賀神社例祭



政庁に続く階段



陸奥総社宮例大祭

いつ訪れても
風情ある風景に出会える
史都多賀城の四季折々の
表情をお楽しみください

冬



多賀城碑



初詣・歳旦祭



どんと祭



節分祭

1月1日

初詣・歳旦祭 (市内の主な神社・寺院)

1月14日

どんと祭 (市内の主な神社)

2月初旬

節分祭 (市内の主な神社)

夏



政庁一南門間道路



多賀城跡あやめ園

6月中旬から6月下旬

多賀城跡あやめまつり

7月中旬

多賀城ビアサミット

8月

市民夏祭り「ザ・祭り in 多賀城」

8月下旬

野田の玉川あんどんまつり

伝統と新風



●多賀城鹿踊

江戸時代中期から八幡に伝わるもので、五穀豊穡を祈って舞われました。戦後一時廃れていましたが、昭和52年、地元の若者達によって復活。郷愁を誘う小太鼓の調べに乗った優美な舞は、八幡神社のお祭りやイベントで見ることができます。

●多賀城太鼓

昭和54年に誕生した創作和太鼓。多賀城にまつわる史実をもとにしたオリジナル曲は、ダイナミックな響きの中にも無情な時の流れを感じさせ、哀愁が漂います。市内を中心に各種イベントで演奏を行っています。



おすすめコース (所要時間 4 時間)

- 国府多賀城駅 (1) $\xrightarrow[2分]{110m}$ 東北歴史博物館 (2) $\xrightarrow[2分]{100m}$ 遊歩道 (3) $\xrightarrow[4分]{250m}$ 多賀城廃寺跡 (4) $\xrightarrow[15分]{900m}$ 漏刻モニュメント (5) $\xrightarrow[13分]{800m}$ 南門跡・多賀城碑 (壺碑) (6) $\xrightarrow[6分]{370m}$ 多賀城政庁跡 (7) → 多賀城神社 (8) $\xrightarrow[2分]{100m}$ 作貴地区役所跡 (9) $\xrightarrow[7分]{400m}$ 大畑地区役所跡 (10) $\xrightarrow[11分]{620m}$ 東門跡 (11) $\xrightarrow[2分]{130m}$ 陸奥総社宮 (12) $\xrightarrow[3分]{150m}$ (作貴地区経由) → 多賀城跡あやめ園 (13) $\xrightarrow[12分]{700m}$ 浮島神社 (14) $\xrightarrow[5分]{300m}$ 国府多賀城駅 (1)・館前遺跡

歴史遺産コース (所要時間 2 時間)

- 国府多賀城駅 (1)・館前遺跡 $\xrightarrow[11分]{650m}$ 南門跡・多賀城碑 (6) $\xrightarrow[6分]{370m}$ 多賀城政庁跡 (7) $\xrightarrow[9分]{530m}$ 六月坂地区役所跡 (15) $\xrightarrow[5分]{300m}$ 大畑地区役所跡 (10) $\xrightarrow[2分]{130m}$ 東門跡 (11) $\xrightarrow[8分]{450m}$ 作貴地区役所跡 (9) $\xrightarrow[6分]{350m}$ 多賀城跡あやめ園 (13) $\xrightarrow[12分]{700m}$ 国府多賀城駅 (1)

自然満喫コース (所要時間 3 時間)

- 国府多賀城駅 (1)・館前遺跡 $\xrightarrow[11分]{650m}$ 南門跡・多賀城碑 (6) $\xrightarrow[6分]{370m}$ 多賀城政庁跡 (7) $\xrightarrow[9分]{530m}$ 六月坂地区役所跡 (15) $\xrightarrow[4分]{300m}$ 加瀬沼入口 (16) $\xrightarrow[9分]{500m}$ 加瀬沼公園 (17) $\xrightarrow[9分]{500m}$ 大畑地区役所跡 (10) $\xrightarrow[2分]{130m}$ 東門跡 (11) $\xrightarrow[8分]{450m}$ 作貴地区役所跡 (9) $\xrightarrow[6分]{350m}$ 多賀城跡あやめ園 (13) $\xrightarrow[12分]{700m}$ 国府多賀城駅 (1)

歴史遺産コースと自然満喫コースは、「歴史の道・史都景観形成事業」において、市民の方々と一緒につくったコースです。



敷地内には江戸時代に桃生郡橋浦村 (現石巻市) の肝入を務めた今野家住宅が移築されており、旧家の暮らしぶりを体感することができます。〔宮城県指定有形文化財〕



●東北歴史博物館

旧石器時代から近現代まで、東北地方全体を視野に入れた歴史系博物館。水と緑を効果的に配した敷地内は季節を感じさせる絶好の散策コースとなっています。



多賀城市高崎 1-22-1
TEL.022-368-0106
9:30 ~ 17:00
※入館は 16:30 まで
月曜休館 ※祝休日は除く

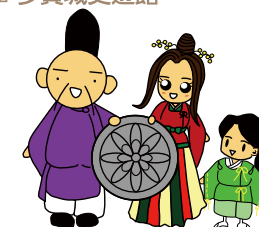
●多賀城市埋蔵文化財調査センター

多賀城南面に建設された古代都市をテーマにした「古代都市多賀城」が常設展示されています。実際に発掘調査で発見された貴重な資料が並び、古代の人々の生活を間近に感じることができます。

多賀城市中央 2-27-1 (文化センター内)
TEL.022-368-0134
9:30 ~ 16:30 ※最終入館は 16:00 まで
月曜休館 ※祝休日の場合は翌日休館
観覧料/無料 ※特別展開催時は有料の場合があります



●多賀城市埋蔵文化財調査センター体験館 多賀城史遊館



史遊館のマスコットキャラクター
右から しゅう丸、あやめひめ、さざんかおとど

まが玉づくりや火おこし体験など、昔の人々の技を体験しながら歴史の勉強ができる学習施設です。さまざまな体験メニューを取りそろえており、大人から子供まで楽しめます。縄文時代から江戸時代まで、多賀城市の歴史を発掘資料でたどる展示室もあります。

多賀城市中央 2-25-5
TEL.022-368-3127
体験学習受付時間/ 9:00 ~ 11:00 13:00 ~ 15:00
月曜休館 ※祝休日の場合は翌日休館
入館料/無料 ※体験学習はメニューにより材料費が必要となる場合があります